

各地域各民族の
神話伝説物語ハイライト全集

天地の創造・神々と人類の誕生から英雄女神礼賛譚・各民族各文化の
起源物語・動植物や自然にまつわる神話と伝説・終末予言まで

総

解

自由国民社

世界の 神話伝説

説

ギリシア・ゲルマン・ケルト・スラウ・ロシアなどヨーロッパの神
ト・インド・中国・モンゴル・朝鮮(韓国)・日本・アフリカな
伝説、アメリカインディアン・マヤ・アステカ・インカなど南
古史古伝にみるもう一つの日本神話まで400項



世界の神話伝説・総解説

1991年11月20日 改訂版第1刷発行

発行者 ————— 長谷川 秀記
発行所 ————— 株式会社 自由国民社
〒104 東京都中央区京橋2-4-12
☎03-3543-5547 (編集部)
03-3281-1271 (販売部)
振替 東京0-189009
印刷・製本 ————— 凸版印刷株式会社

●落丁・乱丁本は販売部宛お送り下さい。おとりかえます。●定価はカバーに表示。

ISBN 4-426-60705-1

● 天地創造・神々と人類の誕生から終末予言まで……

世界の神話伝説・総解説

目次

ヨーロッパの神話伝説

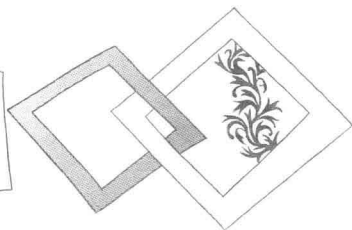
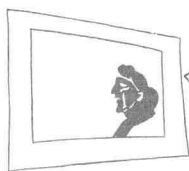
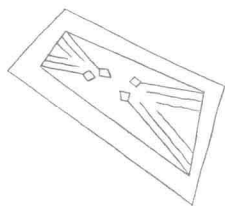
A ギリシアの神話伝説

ギリシア神話の起源と特徴……………	2
オリュンポス神族の世界……………	3
世界の創世と神々の誕生……………	3
ゼウスと兄弟たち……………	5
天界の王となるゼウス……………	6
ゼウスの最初の娘たち……………	6
豊穡女神デメテルの怒り……………	7
出産の主語女神アルテミス……………	8
音楽と弓矢と神託の神アポロン……………	9

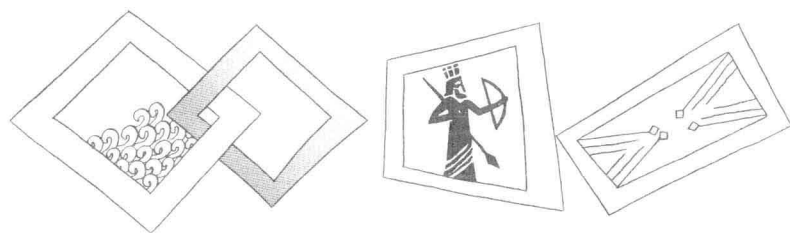
ガイア一族とゼウス……………	9
大洪水と英雄種族メス……………	10
ブドウ酒の神ディオニュソス……………	10
英雄神ヘラクレス……………	12
ガイア一族とゼウスの戦い……………	12
最古の人類——その四つの種族……………	13
プロメテウスの受難……………	14
最初の人間の女パンドラ……………	15
大洪水と英雄種族の誕生……………	16



英雄の種族活躍の時代	16	トロヤ戦争の遠因	23
英雄カドモスの物語	16	パリスの審判	23
テバイ王家の悲劇	17	ヘレネの誘拐	24
美女アンティオペの物語	18	アキレウスの活躍	24
オイディプス残酷な運命	22	オデュッセウスと木馬	25
アンティゴネの死とテバイの壊滅	22	トロヤ戦争の後日譚	25
トロヤ戦争	23		
B ゲルマン・ケルトの神話伝説			
北欧神話の特徴	27	悪神ロキの奸知	36
ゲルマン神話と		悪神ロキの悪戯	36
ケルト神話の共通性	27	三つの怪物——ロキの子供たち	38
ローマの歴史伝説との類似	28	バルドゥルの死	39
インド神話との一致点	29	捕縛された悪神ロキ	41
ゲルマン神話の世界	30	ラグナレク（神々の黄昏）	42
世界ならぬ世界の創世	30	英雄神話の時代	43
天地創造とオージン神の誕生	30	シグムンドと輝く剣	43
昼夜の別と日月の出現	31	シゲイルの悪巧み	44
世界樹ユグドラシル	32	シグニュの復習の誓い	45
オージンとヴァルハラ宮	32	狼になるシグムンド父子	45
戦神トールと美男神フレイ	34	復讐とシグニュの死	46
神々の一族たち	35	シグムンドの戦死	47



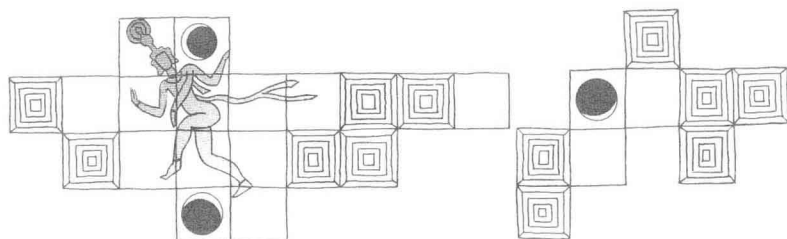
英雄シグルズの活躍譚……………	48
ケルト神話の世界……………	49
ダナン神族の四つの宝物……………	49
C スラヴ（ロシア）の神話伝説	
スラヴの神話……………	51
スラヴの諸神格……………	51
東スラヴの神々……………	51
ペルーン（雷神）……………	51
ヴォーロス（家畜の神）……………	52
ストリーボグ（父なる神？）……………	53
ダージボグ（太陽神）……………	53
スヴァログ（火の神）……………	53
ホルス（太陽神？）……………	53
モコシ（地母神）……………	53
セマルグル（機能不明の神）……………	54
西スラヴの神々……………	54
スヴェントヴィト（軍神）……………	54
トリゲラフ（軍神）……………	54
スヴァロジチ（軍神）……………	54
ヤロヴィト（豊饒の神）……………	54
ルエヴィト（軍神）……………	55
先住種族との第一の戦い……………	49
悪神フォモレ軍との第二の戦い……………	50
チェルノボグ（悪の神）……………	55
プロヴェ（主神？）……………	55
プリペガラ（主神）……………	55
ボダガ（？）……………	55
ジヴァ（生命の神）……………	55
スラヴの創世神話……………	56
スラヴの民間信仰……………	57
森の精……………	57
水の精……………	57
家霊……………	58
出産の神……………	58
吸血鬼……………	58
人狼……………	59
スラヴの伝説……………	59
植物伝説……………	59
聖者伝説……………	60
歴史伝説……………	60



アジア・アフリカの神話伝説

D インドの神話伝説

インド神話の複雑性	64	帝釈天	73
ヴェーダ神話	64	弁財天	74
インドラ（雷神）	65	毘沙門天	74
ヴァルナ（司法神）	66	大黒天	74
アグニ（火神）	66	韋駄天	74
ウシヤス（暁の女神）	67	インドの伝説	75
ソーマ（酒神？）	67	洪水伝説	75
創造神話	67	乳海の攪拌と日蝕月蝕の起源	76
ヒンドゥー教の神話	68	昼夜の起源	76
ヴィシュヌ（主神）	68	山岳は翼をもっていた	77
シヴァ（主神）	70	ウルヴァーシー物語	77
カーマ（愛神）	71	ガンガーの降下	78
ガネーシャ（知恵・学問の神）	71	天女テイローッタマ	79
ハヌマット	71	チャヴァナ仙の話	79
女神たち	71	リシュヤシュリンガ仙物語	80
アプサラス	72	蛙の王女	80
神々の悪徳	72	クリシュナ伝説	81
仏教神話とヒンドゥー教の神々	73	ナラ王物語	83



E ペルシアの神話伝説

ペルシア神話の特徴	84
インド神話との共通性	84
神話の三段階	84
英雄神話・伝説	85
ペルシア神話の世界	85

天地創造	85
善神と悪神の対立	87
ゾロアスター教の神々	87
水の女神アナーヒター	87
雨神ティシュトリア	88
勝利の神ウルスラグナ	88
幸運の女神アシ	89
契約神ミスラ	89
人類の祖	90
悪魔を縛る王	91

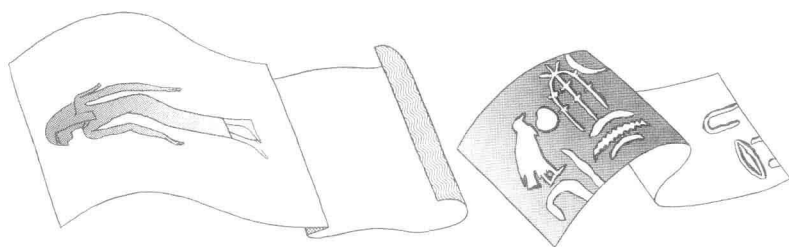
F オリエントの神話伝説

外観——地域・言語・宗教	99
シュメールの神話伝説	100
人間と農牧のはじまり	100

栄光高きジャムシード王	91
蛇王ザッハーク	92
ファリドウーンの国分け	92
英雄神話の世界	93

『アヴェスタ』の英雄	93
クルサースパ	93
白髪の子ザール	93
ロスタムの活躍	94
ソホラーブの悲劇	95
スィヤーウシュの物語	95
終末予言	96
チンワントの橋	96
救世主	97
最後の審判	97

イナンナの世界下り	101
ギルガメシュをめぐる神話	102
アッカドの神話伝説	102



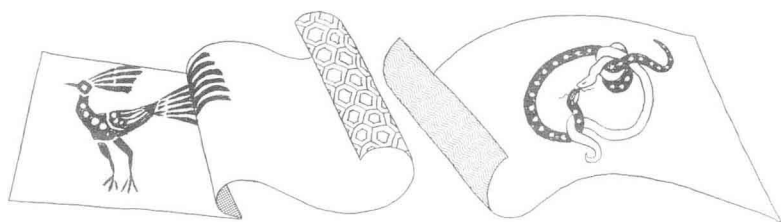
エヌマ・エリシュ（神々の戦争）	104	穀物伝説	129
ギルガメシュ叙事詩	105	始祖感情伝説	129
アトラ・ハシース物語	107	中国少数民族の神話伝説	129
エタナ物語（借りものの翼）	108	ブーラン族の創世神話	132
アダパ物語（逃した幸運）	108	ジンポ族の創世神話	137
ヒッタイトの神話伝説	109	ショオ族の日月神話	140
クマルビ神話（石の怪物）	110	ホジュン族の日月神話	143
竜神イルルヤンカシユの神話	110		
テリピヌ伝説（姿を消した神様）	111		
ウガリットの神話伝説	111		
		バアルとアナト（バアルの物語）	112
		アクハト（天の弓）	113
		ケレト（誓いを忘れた王様）	113
		エジプトの神話伝説	114
		ホルスとセトの争い	115
		二人兄弟のは話	116
		サトニ・ハームス奇談	117
		バフタンの王女	118
		『死者の書』（アニのパピルス）	119
		オシリス神話（プルタルコス）	121

G 中国の神話伝説

神話成立の経緯と特徴	122
中国古代の神話伝説	123
天地創成神話	123
太陽神話	125
人類起源神話	126
死と疫病神の起源神話	127
牽牛星・織女星の伝説	128

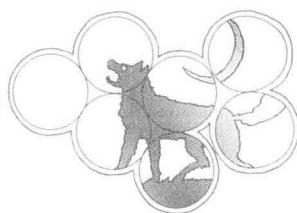
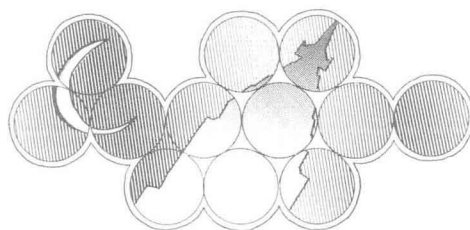
H モンゴルの神話伝説

ブリヤートの神話伝説	147
------------	-----



Ⅰ 韓国（朝鮮）の神話伝説

創造神話	147	モンゴルの神話伝説	154
東西の天神の争い	147	族祖伝承	154
ゲセルの物語	148	エトウゲン・エへと	
銀河と北斗七星	150	チャーガン・エブゲン	155
雷神フヘデイ・メルゲン	150	野獣の守り神マニ・ハーン	156
シャルガイ・ノヨン	151	ダヤン・デールヒの伝説	157
ボハ・ノヨン・バーバイ	152	山霊	157
サヒャーダイ・ノヨン	152	馬頭琴の起源	158
悪霊・悪鬼	153		
韓国神話の構造	160		
韓国の神話	162		
人間と生物の創生	162	(石の下から生まれる金蛙王)	164
天地開闢・万物創生	162	卵からかえった朱蒙	165
山と川と海と原の創生	162	高句麗の建国	165
山の創生	162	類利と断剣(嫡子の証と剣)	166
山河の創生	163	天降った新羅の始祖朴赫居世	166
檀君神話(古朝鮮神話)	163	亀旨峰に天降った金首露	167
解慕漱(北扶余国)神話	164	鷄林に天降ったキムアルチ	167
北扶余の国譲り神話	164	龍王の童子、新羅王となる	
金蛙王の生誕		(脱解王説話)	168
		大地から生まれた三聖人	168
		日の神と月の神	168



韓国の伝説

龍王の王子處容郎

169

高麗の始祖王建

169

李朝の始祖李成桂

169

(お墓が王を生む)

170

羽衣伝説

170

牽牛織女

170

トケビと鼻刺

170

羽のような鱗をもった壮士

171

虎にさらわれて神の妻になった娘

171

山と山の争い(木牛戦)

171

エミレー神釣鐘

171

聖なる河回仮面

171

J 日本の神話伝説

日本神話の特徴

172

『古事記』にみる日本神話

173

国生みと神々の誕生

173

黄泉国

175

天照大御神

175

天の石屋開き

176

八俣大蛇退治

177

大穴牟遲神

178

根之堅洲国

179

国作り

179

国土献上

180

天孫降臨

182

日向三代

182

神武天皇

186

崇神天皇

186

本牟智和氣御子

186

倭建命

187

神功皇后(海を渡る皇后)

188

風土記の神話伝説

189

加賀の神崎

189

天の橋立ての話

189

浦島子の話

189

羽衣の話

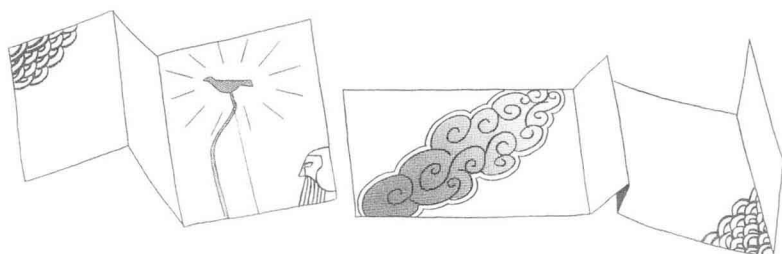
190

道成寺の話(仏教説話)

190

実在人物に関する伝説

191



K アフリカの神話伝説

アフリカ神話の特徴……………192

世界のはじまり……………193

創造神……………193

最初の人間の出現……………194

天地の分離と神人の分離……………195

死の起源……………196

性と生殖の起源……………197

火の起源……………198

ドゴン族の創世神話……………199

大地の創造と反逆児ユルグの誕生……………199

水の神の誕生……………199

第一のことばの啓示……………199

最初の近親相姦……………200

人間の創造……………200

南北アメリカの神話伝説

割礼と陰核切除の起源……………200

第二のことばの啓示……………201

火の起源……………201

閏節の起源と農耕の起源……………201

死とシギの大祭の起源……………202

ヨルバ族の創世神話……………202

大地と人間の創造……………203

雷神シャンゴ―歴史と自然……………203

オグン神―文明の形成……………204

エシュ神―占いとトリックスター……………205

社会形成と神話……………208

死と婚姻の起源……………208

部族の離合集散……………209

王国の成立……………210

L アメリカ・インディアン神話伝説

アメリカ・インディアン略史……………212

北米の神話伝説……………214

民間説話からみた文化圏……………214

灰色熊と最初のインディアン……………215



地域別の神話の特色	218
文化英雄神マナボジヨの誕生	220
コヨーテが手にいれた特別の力	221
レーニア山と大洪水	222

チノーク・インディアンの起こり	223
かいつぶりになった少年	224
聖なる物語としての神話	225

M マヤ・アステカ・インカの神話伝説

中南米諸国の神話の特徴	226
マヤの神話伝説	226
天地創造	227
万物の創造	228
双子の神の物語和太陽と月の起源	228
人間の創造	230
アステカの神話伝説	230
宇宙のはじまり	231

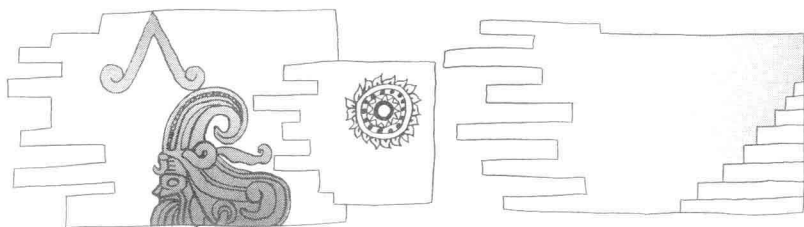
天地創造	231
五つの太陽の時代	232
人間の創造	233
インカの神話伝説	234
天地創造	235
王朝起源神話	235
ワロチリ地方の神話	237
神話と動物の伝説	238

幻想と異端の神話伝説

N ケルトの神話伝説

ケルト神話の背景	240
「大陸のケルト」と「島のケルト」	240
ローマの神々とケルトの神々	240
ドゥルイド神官と転生思想	241

天地創造神話のない神話	242
国造りを見たトゥアンの転身	243
ダーナ神族の神話	244
女神ダヌの神族と四つの宝	244



○ 古史古伝にみるもう一つの日本神話

古史古伝とは……………	256	アルスター神話……………	250
竹内文書的神話伝説……………	257	赤枝の戦士団とフィアナ騎士団……………	250
天神七代―宇宙開闢の神々……………	257	英雄ク・ホルンの誕生と名の由来……………	250
上古二十五代―天浮舟の使用……………	257	「クリーリーの牛争い」とク・ホルンの最後……………	251
不合朝七十三代―大異変の時代……………	258	ディアドラとノイシュの悲恋……………	253
神倭朝―弥生文化大革命……………	259	フィアナ神話……………	254
九鬼文書の神話伝説……………	260	フィンと智恵の鮭……………	254
宇宙卵の大爆発……………	260	オシーンと妖精の王女ニアヴ……………	254
進化準備作用……………	260	ディルムッドとグラニーニヤの恋……………	255
八百万神の誕生―造化時代……………	260		
		天の神祭り―修理国成の神皇時代……………	261
		鬼人の反乱―万国統治神皇時代……………	261
		鵜茅葺不合天皇時代……………	261
		長髄彦との戦い―神武天皇時代……………	262
		宮下文書の神話伝説……………	262
		四色人の誕生……………	262
		「火神」支配の時代……………	262
		富士高天原王朝の成立……………	263
		外寇と戦った神々……………	263
		全国的な大地震と叛乱が起こる……………	264



神武朝―

「革命」による政権交代？……………

上記の神話伝説……………

別天神八代―宇宙創成時代……………

神代十六代―国生み・神生み伝説……………

高天原朝―

スサノオに秘められた謎……………

ニニギ朝―日向への天孫降臨……………

ホホデミ朝―地方制度の準備……………

ウガヤ朝―生活文化の発展……………

ウガヤ文書と山の民系文書……………

ウガヤ朝はなぜ「七十二代」か……………

秀真伝の神話伝説……………

267 267 267 266 266 266 265

国常立尊と八方降神……………

自然哲学―天成神道……………

天孫降臨は三度あった……………

アマテラスは男神だった……………

瓊と矛と鏡―三種の神器の原型……………

シルクロード伝承―仙女との結婚……………

東日流外三群誌の神話伝説……………

ウルム氷期の記憶……………

アソベ族とツボケ族……………

荒吐族風雲録……………

長髓彦・安日彦伝説……………

荒吐・熊襲同盟の成立……………

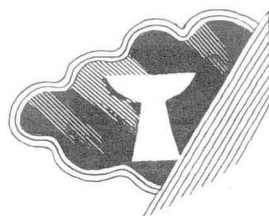
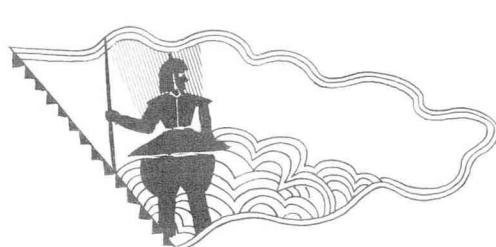
十三湊と安東大將軍……………

271 271 271 271 270 269 269 269 268 268 268

●コラム・世界の神話伝説ものしり学……………

●世界の神話伝説を理解する参考書文献一覧……………

62 98 272 159

●アステカ神話・中国神話の世界観の図……………見返し
●目次・本文イラスト……………青木昌三

「一部」

ヨーロッパの神話伝説



世界の神話には、どの二つの地域のものを取り上げて比較しても、かならず似たところが見つかると、これはよく考えてみれば、不思議なことだ。なぜならわれわれが日常生活で体験する現実の中では、起こり得る出来事と、けっして起こり得ぬ出来事との区別があり、ある原因からは決まっておる結果が生じる。ところが、神話の中で起こる事件は、因果の法則にも縛られず、人間がとつぜん木や石に変わったり、天に昇り土の中から湧いて出るなど、現実にはけっして起こり得ぬどんな出来事で

も、神話の中では起こる可能性がある。だから神話の筋の展開には、現実にはない無限の自由があり、話の内容はいくらでも多様に成り得るはずだ。それなのに、人間が世界中で語り伝えてきた神話は、いったいなぜ、どの地域のものも似たところのある内容を持つてゐるのだろうか。この疑問に一つの納得のゆく答を出しているのがスイスの心理学者ユングの提唱した「元型」の理論だ。人間の身体に、全人類に共通する形と働きとがあるということに、反対する人はいないだろう。ユングは、心

にも同じように全人類に共通の形と働きのメカニズムのようなものがあると考え、それを「普遍的無意識」と呼んだ。この普遍的無意識の中で働く形のようなものが元型で、その作用によつてわれわれの意識に、さまざまなイメージが生み出される。これらのイメージは多種多様だが、同じ元型の作用から生まれるものには当然、個人と文化の違いを越えた共通性がある。ユングによれば、世界中の神話はこの元型の作用によつて、どの地域のものも似た内容を持つのである。

■世界の神話伝説・その1■

ギリシアの神話伝説

ギリシア神話の起源と特徴 オリュンボス神族の世界

英雄の種族活躍の時代 トロヤ戦争

学習院大学教授
吉田 敦彦

■ギリシア神話の起源と特徴

ギリシア神話は、われわれには、紀元前八世紀の作品と思われるホメロスの二大叙事詩『イリアス』と『オデュッセイア』および、これとほぼ同時代のヘシオドスの二編の叙事詩『神統記』と『仕事と日々』を嚆矢とする、現存の古代ギリシア文学に物語られ、美術に表現された形で伝わっている。古代ローマのラテン文学の中で物語られている神話も、大部分はギリシア神話の翻案されあるいは再説されたもので、ギリシア・ローマ神話として一括され、ギリシア神話の一部として取り扱われている。このギリシア・ローマ神話が、欧米文化に共通の古典神話として、今日まで聖書と並ぶ

欧米人にとつての発想の源泉であり続けてきたことは、今さら言うまでもあるまい。

ギリシア神話の起源はしかしながら、紀元前八世紀よりずっと古くまで遡ることが確実である。なぜならシュリーマンに始まる考古学的発掘によって、紀元前二千年期にギリシアとクレタ島および神話のトロヤにほかならぬと一般に見なされている小アジア北西海岸にあった古代都市などで行なわれていた、青銅器文明の実体が明らかにされたが、ギリシア神話の内容は、いろいろな点で、この青銅器文明ときわめてよく合致する。

その上近年には、紀元前二千年期の後半にギリシア本土とクレタ島で、ギリシア語を記すのに用いられていた文字が解読され、ゼウスやポセイドンをはじめギリシア

神話に登場するもつとも主要な神々の多くが、この時代にすでに崇拝を受けていたことが、明らかにされた。つまりわれわれに知られているギリシア神話の原形は、紀元前二千年紀後半のいわゆるミューネ文明の時代に、この文明を母体として形成されたことが、確実と考えられるのである。

ギリシア語を話す民族が、ギリシア本土に最初に到来したのは、それよりもさらに古く、紀元前三千年期末葉のことであったと思われる。インド・ヨーロッパ語に属するギリシア語と共に、彼らは当然、ユーラシアのステップ地帯にあったと想定されている、インド・ヨーロッパ語族の原住地で形成された神話を持って、ギリシアに移住してきたに違いない。

しかしこのインド・ヨーロッパ神話に由

来る最古のギリシア神話は、ギリシア人が、ステップ地域とは非常に違うギリシアの地中海的風土と定住農耕の生活に適應する過程で、深甚な変化を蒙った。その上ギリシアには、ギリシア人が到来するより以前から、青銅器文化がすでに行なわれていたので、ギリシア人はこの先住民の神話から影響を受け、その要素を彼らの神話の中に取り入れたと想像される。

しかもミューケネ文明は、ギリシア人がクレタ島のいわゆるミノア文化から強い影響を受けて生み出したもので、この時期にはギリシア人はさらに、エジプトやフェニキア、ヒッタイトなどの先進文明と密接な交渉を持ち、これらの諸文明を介して、メソポタミアの文化からも、間接的影響を受けた。ミューケネ時代に形成された神話の中にはしたがって、クレタ島のミノア文化の神話や古代オリエン트의諸神話からの影響が、受容されたに違いないと想像される。

またアキレウスと親友のバトロクロスの関係や、オデュッセウスの冒険にも、いろいろな点で『ギルガメシュ叙事詩』の内容と類似した点が認められ、これらはどれもおそらく、ギリシア神話がミューケネ時代に古代オリエン트의諸神話から受けた影響によって生じた類似であろう。

つまりミューケネ時代に形成されたギリシア神話の原形は、紀元前三千年期末葉にギリシア人によってギリシアに持ちこまれた、インド・ヨーロッパ語族の共通文化に由来する神話が、風土と生活の変化に適應しながら、先住民の神話や先進諸文明の神話から影響を受け、変化し混淆したものである。

このようにして形成された神話は、ミューケネ文明が紀元前二千年期末葉に消滅してからホメロスとヘシオドスの作品が文字に書き止められるまで、暗黒時代と呼ばれる三世紀余りの期間のあいだ、叙事詩人たちによって口承の物語として語り継がれた。ホメロスとヘシオドスは、この伝統を受け継ぎ、その期間のあいだに完成された口誦叙事詩の詩法に従って作詩した傑作を、彼らの時代にギリシアで使用されるようになった、ミューケネ時代に用いられた音節文字とは違う、アルファベットの文字で記し

て、後世に残した。それによって彼らは、後のギリシア人たちから、彼らに神話を作った与えた詩人と見なされ、その作品がギリシア神話の原典として取り扱われることになったのである。

しかしギリシア神話はけっして、ホメロスとヘシオドスの叙事詩に歌われた形に固定したわけではなく、その後も抒情詩や悲劇などの中で再説されながら、変化を加えられた。また文学作品の中に取り入れられず、口伝で各地方に伝承されていた話もあった。その全体がギリシア神話を構成していたこれらの豊富な伝承の一部分は、ヘレニズム時代および古代ローマの文学作品や、さらに紀元十二世紀のビザンティンの学者たちの著作などの中に物語られ、あるいは言及されて、われわれに伝えられている。

■オリュンポス神族の世界

●世界の創生と神々の誕生

ギリシア神話の中で活躍をする主な神々は、最高神ゼウスを家父長とも王とも仰ぎ、大家族を構成して、テッサリアとマケドニアの境にそびえるオリュンポス山の頂上に宮殿を構えて暮らしている。このオリ